



# 『はばたき』興本扇学園だよりNo.7

興本扇学園 校長 稲葉 守朗 令和4年9月30日

ホームページ <http://www.adachi.ed.jp/adokim/index.ht>



## 「根締め」

校長 稲葉 守朗

9月14日より、2泊3日で7年生と魚沼自然教に行きました。宿泊した「みどりの学園」は、奥只見ダムの近くにあり、まさに秘境の中の一軒宿です。約60年前に作られた水力発電所は、現在も多くの電気を作り、毎日関東地域にも送電しています。川をせき止め多くの水を蓄えた湖は、人工湖としては日本最大級です。ダムの強度は現在も健在で、しっかりと役割を果たしています。自然教室の初日には、黄金色に輝いた稲の収穫を体験しました。地元の方によると、魚沼地域の水田は、米作りを目的として作られたものですが、「貯水池」としての機能も果たしていて、洪水などの水被害の防止に役立っているそうです。「稲作の後継者がいなくなり水田が機能しなくなると、大雨のときの水被害が心配になります。」と話していました。

水は、私たちの日常生活においてとても身近な存在で、水・氷・水蒸気というように3つの姿に変化します。このように柔軟に変化する物質は水以外にないそうです。山から流れ出た清らかな水は、清流となり大地を下り、やがて大河となって海に注ぎます。水は、雨⇒川⇒海⇒雲という循環を繰り返し、豊かな自然環境をつくっています。しかし、ときには許容範囲を超えてしまうことがあります。

9月には、巨大かつ強力な台風14号をはじめ、4つの台風が日本の各地に大きな被害をもたらしました。そして、台風による強風や豪雨は、多くの人の生活する場を奪いました。このような河川の氾濫は、昔から繰り返し起こっているようです。

神奈川県小田原を流れる酒匂川（さかわがわ）の堤防には、その強化と水防工法のための資材として松が植えられています。酒匂川は、暴れ川とも言われ、過去に繰り返し水被害をもたらしてきました。農業を営む二宮金次郎の家族も被害を受けていました。1800年頃の金次郎が13歳の時の話です。金次郎は、子守の手当としてもらった二百文（現在の6500円程度）を、自分の生活費にあてるよりも、みんなの生活を脅かす洪水対策のために役立てようと考え、子守の帰りがけに松の苗木売りから200本を安く買い取り、酒匂川の堤防にその苗木を植えました。堤防は松の根でしっかり固められて、洪水でも崩れなくなると考えたのです。古来の土木造作では、「根締め（ねじめ）」という、木の根により石垣や土手の強度を高める方法がとられてきました。金次郎は、そのことを知っていたのでしょう。干ばつで苦しむアフガニスタンで、用水路づくりに尽力した中村哲さん（医師）もこの技法を活用し、「蛇籠（じゃかご）」（鉄線で編んだ籠に玉石などを詰めたもの）が積まれた用水路の周りに柳の木を植えました。未来を見据えた中村さんの言葉、「鉄線で編んだ蛇籠は、いずれ腐食し切れてしまうだろう。しかし、そのときには、柳の根がしっかり蛇籠の石に絡みつき強度を保ってくれるはずだ。」がとても印象的でした。

中国の古典の言葉には、「一年計画ならば穀物を植えるのがいい。十年計画ならば樹木を植えるのがいい。終身計画ならば人を植える（育てる）に及ぶものがない」とあります。この言葉からも、人を育成することの大切さが分かります。学校は、まさに教え育み人づくりをする場です。人のため、社会のため、世界のために役立つと心をもつ人材を育成できるよう、ご家庭や地域と協力して、教育活動を進めていきたいと思えます。

# 令和4年 10月 行事予定

10月	曜	共通	東校舎	西校舎
1日	土	都民の日		
2日	日			
3日	月	朝礼 学校公開始(3~7日、15日)	委員会 教育実習始(2・3年)	専門委員会
4日	火	安全指導	食育出前授業(3年)	環境学習講座(5年)
5日	水	丸付け交流(7年) 学校説明会(東校舎体育館)		
6日	木			
7日	金	前期終業式		
8日	土			
9日	日			
10日	月	スポーツの日		
11日	火	後期始業式		学園祭特別時間割始 マナー講座(9年) 後期専門委員会
12日	水	4時間		
13日	木			
14日	金			進路学習会(9年)
15日	土	土曜授業(学校公開)	いのちの授業(4年)	鋸南保護者説明会(5年)
16日	日			
17日	月	脊柱側わん健診		生徒会朝礼
18日	火			
19日	水	避難訓練		
20日	木		児童集会	
21日	金			
22日	土			
23日	日			
24日	月		東学園祭特別時間割始	
25日	火			連合英語学芸会
26日	水			
27日	木			
28日	金		教育実習終(2・3年)	学園祭(5~9年 児童生徒鑑賞日)
29日	土		東校舎休業日	学園祭(保護者鑑賞日)
30日	日			
31日	月			西校舎振替休業日

## 6年生 日光自然教室

担当：根本 絵奈

9月7日（水）～9日（金）に、2泊3日で日光自然教室に行ってきました。

「レベルアップ！輝け75人の主役たち」というスローガンを掲げ、6月から準備を進めてきました。昨年度の鋸南自然教室での経験を活かし、一人一人が役割をもち、よりよい宿泊行事にするために必要なことを自分たちで考えながら事前学習を行いました。

当日の3日間は不安定な天気が続きましたが、計画していた体験や見学を全て行うことができました。天候による時間の変更や行程の入れ替えがあっても、実行委員を中心に声を掛け合い、臨機応変に対応する姿はまさに“レベルアップ！”していたと思います。

東京では触れることのできない大自然や歴史的建造物など、事前に自分たちが調べ想像していたものを実際に間近で見ることができました。木彫り体験で夢中になって彫ったお盆は、世界で一つの素敵なお土産となりました。宿舎でのレクも、目一杯楽しみ、学年の絆を深めることができました。キャンプファイヤーで炎を囲み一つの輪になって過ごしたあの時間は、大切な思い出になったでしょう。

仲間と支え合って3日間生活したことで、自分たちのよいところをたくさん知ることができたと思います。今後も様々な場面で75人が輝いてくれることが楽しみです！

## 7年生 魚沼自然教室

担当：梶間 真穂

久しぶりに本来の形で7年の魚沼自然教室が実施されることになり、6月から実行委員を中心に計画をし、事前学習を進めてきました。中学生になって初めての宿泊行事を楽しみに、事前学習では「どうやったらおいしいカレーを作ることができるのか」、「モルックってどんなスポーツ？」、「稲刈りのやり方」などを中心に、各班ごとにそれぞれ学習を深め、より楽しみな気持ちを一層引き起こしてくれました。

9月14日～16日の3日間、新潟県魚沼市は、日中は日差しがとても強く、体調面も心配されましたが、朝晩の涼しいぐらいの温度は頭をすっきりさせてくれ、山々に囲まれた自然を十分に満喫することができました。1日目の稲刈り体験では、鎌で実際に稲刈りをし、稲刈りをするだけでなく、稲1本も無駄にしないという農家の方々のお米作りに対する姿勢も学ばせていただきました。2日目の野外炊事では飯盒でご飯を炊き、班で協力してカレーを作りました。同じ材料で作るカレーなのに、どうしてこんなにも味の違ったカレーが出来るのか不思議そうな生徒たちでしたが、どの班も協力して、美味しいカレーを作ることができました。午後は奥只見湖の遊覧船に乗り、奥只見ダムの見学でした。直線重力式コンクリートダムとしては日本一の高さを誇るダムから発電される電気は、私たちの住む東京にまで届いていることを知りました。また、そのダムの建設には多くの人の関わりがあることも忘れてはいけません。3日目はモルックというフィンランド発祥のゲームを行い、大いに盛り上がりました。この自然教室を通して、7年生は、協力することの大切さ、集団で行動することの大切さを学びました。それらの学びを、今後の学校生活に生かしてくれることを期待しています。

# 引き渡し訓練

担当：高橋 宏典

9月3日（土）の3校時に、引き渡し訓練を実施しました。新型コロナウイルス感染症予防の対策を講じながら、3年ぶりの実施となりました。この訓練のねらいは、「避難指示（緊急）や緊急下校時に備え、適切な引き渡し訓練を行い、保護者と安全に下校すること」と、「保護者が迎えに来るまで教室で静かに待機し、残留児童・生徒は、東西校舎の各体育館にそれぞれ移動をして待機すること」です。実際に災害が起こった場合、通信手段は機能しなくなる可能性がありますし、待機時間も今回とは比べられないほど長時間になることが予想されます。どんな状況においても、冷静に判断し落ち着いて行動できるように、日頃からご家庭で話し合ったり、防災グッズを定期的を確認したりしておくとうよいと思います。今回の訓練が、そのきっかけの1つになったら、意義深い活動だったと言えるのではないのでしょうか。

# 3年生 環境学習

担当：平山 潤

9月15日（木）5時間目に「海の落語プロジェクト」として、落語家や環境問題専門家の先生を招いて「海のごみ問題」について授業を行いました。

落語やクイズを通して、今、世界中で問題となっている海洋ごみについて考え、海のごみは自分たちの生活とも関係が深いことを知る貴重な時間になりました。特に落語は、初めて見るという児童も多く、身振りと手振りのみで噺を進め、一人で何役も演じる落語家さんの技術に驚きの声が上がっていました。また、噺の面白さに笑い声も絶えず、海洋ごみの問題について楽しみながら学ぶことができました。



# ～図書担当の窓～

担当：安村 龍太

「〇〇の秋」と言えば、食欲、スポーツ、芸術などがありますが、その中に「読書の秋」もあります。明治時代の文豪、夏目漱石は小説「三四郎」に『燈火（とうか）親しむべき』という一文を書きました。「秋になると涼しくなり、夜も長くなって燈火、つまり明かりの下で読書するのに適している」という意味だそうです。明治時代の人も秋は本に親しみやすい季節だと思っていたようです。

暑さの落ち着いた秋は、集中力が高まりやすく、読書に最適な季節です。本を読むと、今まで知らなかった知識が増えたり、実際に経験したことのない出来事を疑似体験したりすることができます。ぜひ、家でも本を読んだり、家族と本について話したりしてください。今までとは違った世界が目の前に広がるでしょう。